大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F114310104794	設置等組織名	工学応用化学生物学科
大学名	神奈川工科大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	神奈川	事業計画名	工学部応用化学生物学科新設

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、未尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	令和5年度は、令和6年度より運用スタートする新設学科「工学部応用化学生物学科」に対して、新カリキュラム計画、施設の整備、教育・実験体制の準備・調整の期間とする。 2-①令和5年8月以降：実験実習室の改修　1年生「化学・生物ユニットプログラムⅠ」(前期)、「同Ⅱ」(後期)、２年生「合成化学実験ユニットプログラム」(前期)及び「物理化学実験ユニットプログラム」(後期)、「応用バイオプロジェクト１」(前期)、「同Ⅱ」(後期)、「生命科学実験Ⅰ」(前期)、「同Ⅱ」(後期)の実験・実習のための各実験室の改修と整備を実施する。(C6号館401、411室、508室、509室、E4号館103室、203室、D3号館303室、研究室、等) 2-②令和5年8月以降：実験実習室を含む設備において、授業教材準備と具体的な授業運用法の策案と準備　応用化学生物学科の課題解決型のゼミ、ユニットプログラム(UP)、プロジェクト授業に関わる具体的な授業運用法の策案と準備、調整 2-③動機付け教育(グリーントランスフォーメーション(GX)分野、環境保全、脱炭素・カーボンニュートラル分野)、ゼミ、講義、課題解決型PBL教育における授業運用の準備 専門学科の３コース(応用化学コース、応用バイオコース、生命科学コース)におけるグリーン(GX)教育(カーボンニュートラル、脱炭素、等)の導入の検討とそれに関わる準備、等 2-④学部学科横断型実践教育（理系女性教育プログラム）の運用法の検討と準備、学部学科横断型環境教育プログラム(Stop the CO_2 プロジェクト)との連携強化策の検討と準備 2-⑤学校推薦入試(2024年度入試)における理系女子枠入試の実施	2-①令和５年８月～　各実験実習室の施設設備の整備を実施した。(C6-401実験室：防滑性能及び耐薬品性能を有する床に更新, 実験レクチャー用映像システム設置。学生実験用ロッカー設置。C６-411実験室：防滑性能及び耐薬品性能を有する床に更新, 実験レクチャー用高解像度プロジェクター設置及び実験台固定型実験観察画像活用モニター一体型PC設置。学生実験用ロッカー設置。C６-508・509実験室：実験レクチャー用高解像度プロジェクター設置。学生実験用ロッカー設置。E４号館-103・203実験室：実験レクチャー用高解像度プロジェクター設置。実験室照明を高輝度ＬＥＤタイプに更新工事実施。学生実験用ロッカー設置。実験準備室ドラセキュリティ錠に改修。実験機材保管用可動棚設置工事および セキュリティ錠付き薬品保管庫設置工事を実施。D3号館-303実験室：実験レクチャー用映像システム設置。実験室照明を高輝度ＬＥＤタイプに更新工事実施。C６号館616実験研究室：実験研究区分により室内パーテーション設置工事及び実験研究用シンクの設置工事を実施。E２号館307・309実験研究室：学生実験研究スペースと学習スペースの区分け対応工事の実施。） 2-②令和５年９月～　1年次生の実験実習系新設科目(必修科目)について、化学、生物・生命の動機付け教育(化学・生物ゼミナールⅡ(前期),同Ⅱ(後期))、さらに基礎理論の理解とその基礎をベースとした実験・実習が融合したユニットプログラム(化学・生物ユニットプログラムⅠ(前期),同Ⅱ(後期))の授業内容を整備し、同時に関連する実験研究室（Ｅ２号館１階：実験研究カンファレンス室Ａ設置工事、Ｅ２号館２階：実験研究カンファレンス室Ｂ・Ｃ設置改修工事）の整備を実施した。 2-③令和５年９月～　工学部として必須なグリーントランスフォーメーション(GX)分野、脱炭素・カーボンニュートラルに関する環境保全やその取組等について、2024年度よりC6号館応用化学生物学科がスタートする１年次生をを対象に最適や理解の定着を図るため、動機付け教育を複数の科目に設定した。　初年次初頭期教育(専門分野概論(4月集中授業))、上記②項のゼミナールⅠ,Ⅱ、ユニットプログラムⅠ,Ⅱにおいて、テーマとして導入し、動機付け教育の準備を実施した。また、本事業の主旨と学部教育及び研究に反映すべき事項や注意事項等について、応用化学生物学科の担当教員にＦＤ活動を実施し周知した。 2-④令和５年９月～　教育プログラムとして、「理工系女性教育プログラム」(全6科目)を新設し、令和6年度より運用を開始する。本教育プログラムは、将来、リーダーシップを取りつつ新しい技術や産業を牽引できる女性を育成する目的を持っている。また、「Stop the CO_2 プログラム」(全6科目)では、環境保全、脱炭素・カーボンニュートラル、省エネ、グリーンエネルギー、工学系素材、等をテーマとした教育プログラムを履修できるカリキュラム体制を整備した。 2-⑤令和５年１１月　2024年度入試では、学校推薦型「理工系女子対象公募制」入試として公募したが受験者はいなかった。同時に行った従来の学校推薦型入試に吸収されたものと考えられたため, 2025年度入試では、総合型選抜「理工系女子特別選抜」入試として公募することに改め、改善を図った。	令和5年度自己評価　【２】計画を十分には実施していない。 実験室・研究室施設設備整備について資材・機材がメーカーの製造遅延により遅れることが確定したため, 計画変更申請を行い（承認日：令和６年３月２９日）一部の整備（下記①～③）をフェーズ2後倒しとして実施することとした。 ①Ｃ６号館実験室・研究室空調用　熱源設備の製造遅延による工事の後倒し。＜完了予定：令和６年４月＞ ②Ｃ６号館実験室用純水装置付シンクの製造遅延による工事の後倒し<完了予定：令和６年６月> ③Ｅ２号館研究室及びＤ３号館・Ｅ４号館実験室用ドラフトチャンバー・実験台等の製造遅延による工事の後倒し<完了予定：令和6年6月>
令和6年度	２後-①実験室・研究室施設設備整備について資材・機材がメーカーの製造遅延により遅れることが確定したため、一部の整備（下記①～③）をフェーズ2後倒しとして実施。 ①Ｃ６号館実験室・研究室空調用　熱源設備の製造遅延による工事の後倒し(完了予定：令和6年４月) ②Ｃ６号館実験室用純水装置付シンクの製造遅延による工事の後倒し(完了予定：令和6年6月) ③Ｅ２号館研究室及びＤ３号館・Ｅ４号館実験室用ドラフトチャンバー・実験台等の製造遅延による工事の後倒し(完了予定：令和6年6月) なお、この間の実験については既存設備で対応可能であること、また、研究活動については、４～５月の間は主に研究計画・検討期間とし、６月の資材・機材納品・設置後から整備施設を活用した研究活動を行うことで、教育研究活動に支障は生じない。 計画変更申請承認日　令和６年３月２９日 令和6年度4月から新学科のスタートに伴い、次の教育の流れの基に授業運営を進める。 3-①令和6年度(初年度)：1年次生 特徴的な科目(グリーントランスフォーメーション(GX)教育) ・専門分野動機付け教育(「専門分野概論」科目)：初年次初頭期教育(4月集中授業) ・グリーン(GX)教育(脱炭素、カーボンニュートラル)及び環境保全の基礎導入学修の実施 　工学基礎教育・体験型教育の実施（ゼミ、ユニットプログラム(UP)、等） ・化学・生物ゼミナールを実施する。 ・理系女性教育プログラムや環境教育プログラム「Stop the CO_2」も同時に学べる教育体制をとる。	２後-①　フェーズ2後倒し 令和６年４月　①Ｃ６号館実験室・研究室空調用熱源設備の設置工事実施 令和６年６月　②Ｃ６号館実験室用純水装置付シンクの設置工事実施 令和６年６月　③Ｅ２号館研究室及びＤ３号館・Ｅ４号館実験室用ドラフトチャンバー・実験台等の設置工事実施 令和6年度は、左記に示した当初の計画通り①項に沿って、対象とする応用化学生物学科1年次生(初年度生)に対し、授業運営を進め教育を実践した。 3-①令和６年４月～令和７年３月 (1)専門分野の動機付け教育：「専門分野概論」(4月初頭集中授業, 必修)、「応用化学概論」(前期, 必修)、「生物工学概論」(後期, 必修)の実施 1)専門分野動機付け教育として「専門分野概論」において、化学, バイオ, 生命科学の各分野の特徴と役割, 将来像が理解できるよう教育を進めた。「応用化学概論」及び「生物工学概論」では、自然環境を題材とした講義や研究室での研究見学を実施し、グリーン環境保全への理解を深めた。なお令和7年度の「応用化学概論」では、近年のCO_2排減状況や脱炭素の社会情勢を知る講義を新たに追加設定し、環境教育を強化する予定である。 (2)工学基礎教育・体験型教育：「応用化学・生物工学ユニットプログラムⅠ・Ⅱ」(必修)へのグリーン環境に関する実験題材の導入と実施 1)「応用化学・生物工学ユニットプログラムⅠ・Ⅱ」(前後期必修)：水道水や飲料水の分析, 酵素の分析, 生物・植物の組織観察, 等, 化学技術とバイオ技術が環境問題に寄与すること, 生物多様性との関わりや有用生物の環境保全, 遺伝子組み換えとカルタヘナの関わり等, 実験を通してグリーン(GX)環境を具体的に理解する教育を実践した。なお、研究を通した体験的学修であるゼミは、2年次に授業展開する「プレ卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において履進していく計画である。 (3)学部学科横断型教育：「理工系女性教育プログラム」及び「グリーン(GX)環境教育プログラムStop the CO_2」の実施 1)「理工系女性教育プログラム」：理工系女性の社会での活躍を後押しする教育プログラムを開始し、1年次「理工系キャリア開発」(プログラム履修者必修)では、応用化学生物学科の履修希望者は女性15名(女子学生の約8割)から履修希望があり, 教育プログラムに取り組んだ。(工学部及び情報学部合わせて履修希望女性59名)。 2)「グリーン(GX)環境教育プログラム Stop the CO_2」：1年次前期の入門科目(選択)では、SDGs, 環境分析, 環境保全, エコ材料, 省エネ技術, 市民の環境保全, 市民の環境保全活動等について, 各科教員・厚木市職員・市民活動団体による講座を設け実践的な環境教育を進めた(履修者16名)。さらに後期の科目「プロジェクトⅠ」(選択)では、グリーン(GX)環境保全テーマを基に学部学科をまたがった研究室で研究活動を行い, 知識と研究技術を修得し, 環境意識の高揚を図った(履修者7名)。	令和6年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。 全体として予定通り実施できた。（一部工事完了が1週間程遅れたが教育研究上の影響はなかった） ①Ｃ６号館実験室・研究室空調用熱源設備の設置工事実施　<完了：令和６年４月> ②Ｃ６号館実験室用純水装置付シンクの設置工事実施<完了：令和６年６月> ③Ｄ３号館・Ｅ４号館実験室用ドラフトチャンバー・実験台等の設置工事実施<完了：令和6年7月> 令和6年度の教育・学修に関わる事業運用は実施計画に沿って予定通り実施でき、特に新たな課題は生じていない。令和7年度も引き続き、円滑な運用に注力したい。
令和7年度	令和6年度4月から新学科のスタートに伴い、令和7年度は、次の教育の流れの基に授業運営を進める。 3-②令和７年度：1～2年次生 特徴的な科目(グリーン教育(GX)) ・上記の令和6年度①項の1年次生の教育に加え、2年次生のグリーン(GX)教育・環境科学教育・課題解決型PBL教育の実施 　環境分野科目、プロジェクト教育、ユニットプログラム(UP)教育、を実施する。	令和7年度は、左記に示した当初の計画通り3-②項に沿って、1年次生及び2年次生に対し、授業運営を進め教育を実践した。 3-②令和７年４月～令和８年３月 (1)1年次生への教育と授業運営 1)専門分野動機付け学修：「専門分野概論」(必修)の実施 　1年次4月上旬に「専門分野概論」集中授業(7回)を実施し, 動機付け教育と研究室体験見学に加え、今年度は学修の振り返りと自己評価ツールとして, 学修成果の見える化を図ったポスセンター(WEB)を導入し, 学修の振り返り強化を図った。 2)GX動機付け・意識高揚学修：「応用化学概論」(必修)の実施 　社会人基礎力講座、学内外の研究者による自然環境保全や脱炭素・カーボンニュートラルに関する講義を行い、GX環境への意識高揚を図った。 3)工学基礎・体験型学修：「応用化学・生物工学ユニットプログラムⅠ・Ⅱ」「微生物学実験」(必修)の実施 　学んだ知識を実践するユニットプログラムを通し、環境化学・生物・生命に関わる課題と体験学修を進め、専門基礎スキルの強化を図った。 ・「応用化学・生物工学ユニットプログラムⅠ・Ⅱ」：水の硬度測定、生物・植物の組織観察、海洋へのCO_2の吸収と気候変動への因子解析, 生物配偶子形成を基に生物多様性の重要性を学修した。 ・「微生物学実験」：食品中の菌類の単離・課題実験により、持続可能な社会形成に関わるフードロス削減と資源有効利用を学んだ。 4)学部学科横断型環境学修：「Stop the CO_2 教育プログラム」の導入教育, プロジェクトⅠで研究室にて環境課題研究を実施し成果発表を行った。 (2)2年次生への教育と授業運営 　2年次生の環境科学教育・課題解決型PBL教育として、事項の授業運用を実施した。 1)工学専門基礎・体験型学修：「合成化学実験」と「物理化学実験」ユニットプログラム、「微生物学実験」「生化学実験」「生命科学実験Ⅰ」の実施 ・「合成化学実験」「生化学実験」：プラスチックのIR分析による海洋汚染の理解やマン分光光度法による種判別と資源利用の理解, 環境負荷低減・資源循環・生物多様性との関連を学修した。 ・「生命科学実験Ⅰ」：カーボンニュートラル・バイオマスにおける植物の機能と役割を学修した。 2)専門基礎教育による環境全般教育：化学基礎「地球と生命の元素」、生物基礎「バイオ工学基礎」「遺伝生物学Ⅰ・Ⅱ」、環境・バイオ分野「環境科学」、エネルギー分野「エネルギー科学入門」、マテリアル分野「化学と生活入門」を実施し、広い視野で環境を創造できる人材育成を進めた。 3)課題解決型研究活動による環境実践教育：「プレ卒業研究Ⅰ・Ⅱ」「Stop the CO_2プロジェクトⅡ」の実施 「CO2プロジェクトⅠ・Ⅱ」で環境浄化研究を行った2年生が日本分析化学会第74年会で研究発表を実施するなど意識の高い学生が育ちつつある。 (3)理工系女性教育(1、2年次生) 　1年次「理工系キャリア開発」(17名履修)、2年次「企業における課題解決プロジェクト」(5名履修)を通し、企業や中等教育機関と連携し理系技術者を意識した学生の育成を進めた。	令和7年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。 令和7年度の教育・学修に関わる授業運用は実施計画に沿って予定通り実行された。現在、新たな問題は見られない。次年度も経験を積み重ね、継続して円滑な教育運用に教職員一丸となって推進していく方針である。
令和8年度	令和8年度は、次の教育の流れの基に授業運営を進める。 3-③令和8年度：1～3年次生 特徴的な科目(グリーン教育(GX)) ・上記の令和6年度及び7年度の各①項の1，2年次生のカリキュラムに加えて、3年次生の専門分野教育の実施、課題解決型PBL教育の実施 ・専門発展分野教育(環境系、マテリアル系、物質合成系、新エネルギー系、バイオテクノロジー系、等)を実施する。 ・卒業研究プレゼミ、機器分析ユニットプログラムを実施する。		令和8年度自己評価　リストから選択してください。
令和9年度	令和9年度4月からは次の教育の流れの基に授業運営を進める。 3-④令和9年度(完成年度)：1～4年次生 特徴的な科目(グリーン(GX)教育と研究教育) ・上記の令和6年度、7年度、8年度の各①項の1～3年次生のカリキュラムに加えて、4年次生を対象にグリーン(GX)研究(環境分析・保全・新エネルギー・バイオテクノロジー・生命科学・物づくり分野)　を含む卒業研究実践型教育の実施 ・自分が所属するコースに限定せず、同一領域の専門分野からなる他コースの教員の研究室への配属希望があれば 単位取得状況を考慮した上で配属され卒業研究を行うことを可能とする。		令和9年度自己評価　リストから選択してください。
令和10年度	令和10年以降は次の教育の流れの基に授業運営を進め計画である。 3-⑤令和10年度以降：工学部全学科へのグリーン(GX)教育・環境教育への教育展開 ・令和9年度までの4年間(R6～R9)の新学科運用における点検、評価、改善を実施する。 ・応用化学生物学科をモデルとして、工学部(機械工学科、電気電子情報工学科)へのグリーン(GX)教育・環境教育		令和10年度自己評価　リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価　リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価　リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価　リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価　リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和5年9月　工学部応用化学生物学科　学科の設置届出予定	令和5年9月　工学部応用化学生物学科　学科の設置届出	
定員減又は学部等の廃止	令和5年6月　工学部応用化学科（入学定員60人、編入学定員若干名、工学関係）及び応用バイオ科学部応用バイオ科学科（入学定員125人、編入学定員若干名、工学関係）学生募集停止の報告予定 令和6年4月　工学部応用化学科（入学定員60人、編入学定員若干名、工学関係）及び応用バイオ科学部応用バイオ科学科（入学定員125人、編入学定員若干名、工学関係）学生募集停止予定	令和5年6月　工学部応用化学科（入学定員60人、編入学定員若干名、工学関係）及び応用バイオ科学部応用バイオ科学科（入学定員125人、編入学定員若干名、工学関係）学生募集停止の報告 令和6年4月　工学部応用化学科（入学定員60人、編入学定員若干名、工学関係）及び応用バイオ科学部応用バイオ科学科（入学定員125人、編入学定員若干名、工学関係）学生募集停止	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	神奈川工科大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。☐

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑭の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑭の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

※については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件※について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
☐ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
☐ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は地域連携・貢献の重視を方針としており、2018年度には文部科学省研究プランディング事業として地域と連携した「先進高齢者支援システムの開発と社会展開」が採択されている。この成果に基づき、本学は神奈川県、厚木市、厚木商工会議所と連携した地域連携協議会の発足を予定してる。この協議会は単に研究による産業振興だけでなく大学を中心にした人材育成も大きな目標としている。応用化学生物学科では地域の化学、バイオ関連の企業と連携し「実践バイオ開発論（仮称）」の科目設置を新たに計画し、企業技術者を客員教員に招聘し実践的な手法を学ぶ内容を盛り込んでいく。	地域連携・貢献の取組実績、進捗状況 本学科の令和7年度の地域連携・貢献活動に関しては、次の通りである。 1)中高教育機関との連携：中高教育機関で、理工系大学への進路に関わる講演や説明会11件、高校生の保護者・PTA向けの講演5件を実施し、近郊の高校と連携して大学進学への理解の推進を図った(次年度も継続予定)。 2)高校模擬授業：高校での模擬授業39件を実施し、また、SSH指定校との連携教育1件(近隣の県立高校)、SSH指定校の学校運営協議会委員として協議2件(県内の県立高校)を昨年に続き実施した。高校生対象サマースクール1件を実施した。 3)初等教育機関との連携：初等教育機関への活動として、例年、厚木市連携の小学生理科実験教室を十数件、小中学生対象サイエンスサマー1件を実施した。 4)地域連携・企業連携による教育協働：1年次「専門分野概論」(初頭集中授業)において、教育関連の企業(2社、いずれも本学と多面的に教育連携している企業)による講師と協働で、社会人基礎力・動機付け教育を実施した。また理工系女性教育プログラム「企業における課題解決プロジェクト」(2年前期)では、企業(3社)と協働で講演も含め課題解決に関わる実践的な教育を展開した。また、1年次の環境保全教育(Stop the CO_2入門)の中で、厚木環境保全市民団体(会長)による厚木市の環境保全の取り組みについて講師として協働授業を実施した。 5)「先進高齢者支援システムの開発と社会展開」については、過去に福祉工学科が開設されていた経緯もあり、本学の専門技術を生かした事業展開の在り方について地域連携貢献センターを中心に検討を進めている。	課題 継続的な課題として、専門科目におけるバイオ関連企業と連携した協働教育の展開について、実務的な教育を進める上で重要視しており、令和8年度に開講する「企業における課題と解決を学ぶ科目(3年次)もその一つのきっかけとして、今後、教育の整備を検討していく方針である。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

☐ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
☐ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
応用化学生物学科の設置にあたり、高等学校訪問、オープンキャパス、受験相談会や高等学校の教諭、塾・予備校向け説明会の開催などを通じて、様々な教育情報を高校生や保護者、高等学校等の教諭に対して広く周知を図ることとしている。そのうえで、近隣の高大連携協定校を中心とした高大連携講座（高校生を対象にした探究学習のための講座）を本学が設置し、高校生が大学の教育を体験できる場を用意していく。また、入学者選抜の実施においては、入試方法の多様化、評価尺度の多様化に努めることと。入学者選抜の受入方針を踏まえた3天で、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜により実施することとしている。各選抜では複数の入試方法を用意しており、学校推薦型選抜には女子学生の確保に向けた取組として「理工系女子対象公募制」を設置、一般選抜には留学生受入れ強化に向けた取組として「外国人留学生試験」を設置している。	高大連携活動、小中高教育支援活動、入試対応、広報活動等の取組実績、進捗状況 (1) 入試説明・オープンキャパスでの対策、高校教員・高校生への対応 1)本学科の紹介、入試対策に関して、大学主催のオープンキャパスを毎月1回のペースで計７回実施した(3/23, 4/27, 5/18, 6/8, 7/20, 8/9, 8/24)。会場には新棟のKAIT TOWNの会場を利用し、学科紹介、実験体験、各種分野のブースを準備して研究紹介、入試相談等を随時進めた。 2)近隣地域の高校生向け無料シャトルバスによる送迎も例年同様に進め、高校及び高校生への直接的な対応を進めた。 (2) 女性進学者の増加対策 1)令和6年度よりスタートした理工系女性教育プログラムに関して、各回(上記(1)1)項)のオープンキャパスで説明会を実施し、合わせて女性を対象とした入試説明を行った。 令和8年度入試では、女性入学者は46名(令和7年度26名、6年度15名)に増加している。 2)JST(科学技術振興機構)「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」(令和6年度より3年間)に関して、市教育委員会や中学・高校の教育機関と連携して進路選択支援活動や教育支援活動を展開している。 (3)入試動向状況 1)令和8年度入試とその入学者動向について、入学者は131名となり昨年度より44名増加した。入学者は、神奈川県比率が48.1%(7年度63.2%)に減少しているが実質63名が入学し昨年度より8名増加した。他県では、東京、静岡、群馬、栃木が増加している。 (4)その他の広報活動 1)令和7年度の広報活動は次のようになった。実施数も例年より増加しており、中高への連携活動や地方他県の本学アドバイザーによる高校連携活動等の地道な活動が成果を上げているものと推測される。 高校模擬授業39件、県立高校SSHとナノ・SSH延べ8件、神奈川県教育委員会との教育に関わる検討、進学指導講演や教育関係招待講演10件、高校生サマースクール、サイエンスサマー等、多数の教育支援活動を実施した。	課題 令和7年度は1～2年次生が対象となり、新教育運営が進められている。新規科目数も増え、授業運営を検討しながら進める時間を多く費やすので、担当科目教員による精力的な活動が進められた。学科内では、入学者の教育はもちろんのこと、入学者数の改善に向け、学科教員の共通事項として、学科会議やその前提となる学科運営会議で具体的な対策を継続的に進めていく方針である。

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	神奈川工科大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和7年度	実施状況報告書指摘事項	○令和7年度収容定員充足率が0.54（工学部応用化学生物学科）となっている。収容定員未充足の 改善に努めること。	1)充足率について 令和2年度充足率1.00を境に令和6年度まで減少し半減(0.50)したが、令和6、7、8年度は、それぞれ充足率0.54(72名)、0.60(87名)、0.90(132名)と大きく向上し改善されつつある。本学科の主な対応状況を下記に示した。 2)広報活動 令和7年度の小中高への模擬授業・実験教育・講演等の実施数は72件に登り、同一テーマで複数日開講も加えると約1.3倍以上の件数で教育連携を進めた。また高校での探求学習に利用できる高校向け化学・生物実験テキストを製作し、近隣の高校に提供している。入試では、全国の進学アドバイザー19名(本学契約職員)により各県で高校訪問や進学相談を行い、学科を紹介する機会を作った。また、同一校に継続的に科学実験講座や講義を実施し、長期的な連携教育を推進し、その成果が神奈川TVや新聞などでも取り上げられている。 3)学科の特色ある教育体制の強化 特色ある教育として、プレ卒研(2、3年次前後期、研究活動に意欲的な学生を伸ばす教育)、海外研修(1、6ヶ月)及び国際化学実験やバイオ特別実験での英語による実践型実験教育の実施、化学・生物・生命系について希望で選択できるコースを2年次から運用し興味ある分野の学びが実現できる教育体制の推進(令和7年度2年生、応用化学コース27名、応用バイオコース25名、生命科学コース18名)、各分野のユニットプログラム(講義・実験・実習・グループワークが連携した体験型・体感型教育)を進めている。 4)理工系女性進学者の確保の推進、環境グリーン教育(GX教育)の推進 近隣女子校への教育連携活動や本学の女性を対象とした「理工系女性教育プログラム」の宣伝活動なども行っている。本学科への女性の入学者の割合は、令和5、6、7、8年度、それぞれ、8.6、19.4、29.9、35.1%と増加傾向にあり、女性比率が年々上昇している。また、グリーン環境教育「Stop the CO_2環境教育プログラム」も継続的に実施し、学部2年生が学術学会で研究発表を行うなど、学習意欲の高い学生が育ちつつある。

大学名	神奈川工科大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	工学部応用化学生物学科（工学関係）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定・届出	開設																	
	事業計画に定める定員	入学定員	人		145	145	145															
		編入学定員	人		0	0	0															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	145	145	145															
		入学者数	人	-	72	87	131															
		女子学生数	人	-	17	26	46															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	4	5	4															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	145	145	145															
		入学者数(B)	人	-	72	87	131															
		女子学生数	人	-	17	26	46															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	4	5	4															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	0.50	0.60	0.90															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	145	290	435															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	72	157	283															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	0.50	0.54	0.65															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	18	24	29															
		授業科目の単位数	単位	-	31	82	142															

大学名	神奈川工科大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	1028	1028	1028	973															
		入学者数	人	966	797	902	1170															
		女子学生数	人	73	96	101	235															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	16	19	28	44															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,028	1,028	1,028	973															
		入学者数(B)	人	966	797	902	1,170															
		女子学生数	人	73	96	101	235															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	16	19	28	44															
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.94	0.78	0.88	1.20															
	収容定員等	収容定員(C)	人	4,072	4,072	4,072	4,057															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	4,014	3,762	3,636	3,649															
		編入学者数	人	1	1	0	0															
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.99	0.92	0.89	0.90															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	970	986	967																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	92	95	90	86															
		授業科目の単位数	単位	739	764	681	695															

大学名	神奈川工科大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1148	1148	1148	1093															
		入学者数	人	1098	891	1017	1170															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,148	1,148	1,148	1,093															
		入学者数(B)	人	1,098	891	1,017	1,170															
		入学定員充足率（B/A)	倍	0.96	0.78	0.89	1.07															
	収容定員等	収容定員(C)	人	4592	4592	4592	4537															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	4503	4218	4083	4122															
		編入学者数	人	1	1	0	0															
		収容定員充足率（D/C)	倍	0.98	0.92	0.89	0.91															

４.外部資金の状況（全学）

改組状況	H30年度 申請−5年	R1年度 申請−4年	R2年度 申請−3年	R3年度 申請−2年	R4年度 申請−1年	R5年度 選定	R6年度 開設	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
項目 / 単位																			
外部資金獲得額 千円	212,375	400,099	498,917	472,814	543,027	481,692	494,702	723,645											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金	千円	457,277
本事業による助成金の額(F)	千円	250,000
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	463,527

特記事項

編入学定員については人数を定めず若干名としており、票中では0と記載している。